

# 中学校 第2学年 国語科書写 学習指導案


埼玉県さいたま市立大宮東中学校  
教諭 金子 希美子

単元名	書き初めを書く「宇宙への旅」(3時間)
単元のねらい	行書の特徴や配列を理解して書くことができる。
本時のねらい	筆脈を意識して平仮名を書くことができる。(第1時) ※「宇」「宙」「旅」は第2時に扱う。
指導時期	12・1月

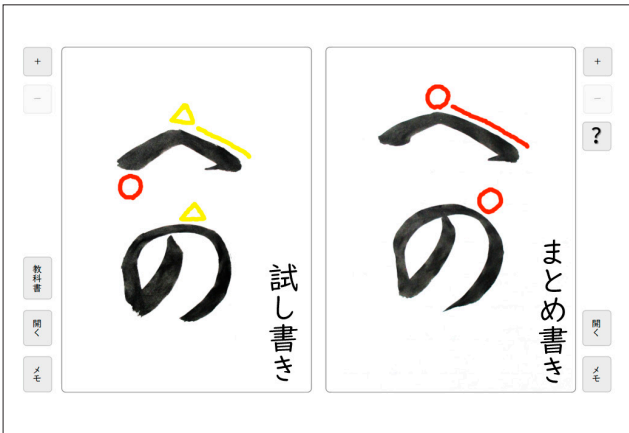
## 「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

書写の学習で「比較ツール」を活用すると、自分の書いた文字と教材文字とを並べて比較でき、視覚的に課題を捉えやすくなる。また、自分の書いた文字を画像で保存することで、上達の様子を客観的に振り返ることができ、学習意欲の向上にもつながる。一方で、実際に筆や鉛筆を使う機会が減ると、書く力や文字感覚が育ちにくなる可能性がある。また、画面上での確認に頼りすぎると、自らの目で実物のバランスや形を捉える能力が弱まるおそれもある。デジタルとアナログの特性を踏まえ、効果的に組み合わせて活用することが重要である。

## 本時(第1時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本時の目標を知る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>目標</b>          どうしたら行書の特徴を意識した平仮名を書けるか考えよう。       </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●行書の特徴を知り、平仮名を書くことを意識させる。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>●目標を提示する。</li> </ul>

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画を視聴し、筆脈を意識すると、行書に調和する平仮名が書けることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画「全体像」   </li> <li>動画「穂先の動き」   </li> <li>各自のタブレット端末で試書を撮影し、保存する。</li> <li>「比較ツール」の活用例            ペン機能で、「よい点」には「赤○」を、「課題となる点」には「黄△」を記入する。   </li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名「への」を試書する。</li> <li>「へ」の終筆の筆脈が、「の」の始筆に向かうことを意識させる。</li> <li>「比較ツール」を用いて、教材文字と試書とを比べ、「よい点」「課題となる点」を伝え合う。</li> </ul>	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平仮名「への」のまとめ書きをする。</li> <li>● 「比較ツール」を用いて、試書とまとめ書きとを比べ、自己評価をする。          &lt;自己評価の例&gt;         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆脈が出るように書けた。</li> <li>・ 「へ」の「折れ」からの長さもちょうどよい長さになった。</li> <li>・ 「の」は筆を回さないで書けた。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>評価</b>          筆脈を意識して平仮名を書いている。          (知識・技能) (まとめ書き)       </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自のタブレット端末でまとめ書きを撮影し、保存する。</li> <li>● 「比較ツール」の活用例</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「比較ツール」の画像を、学習支援ソフトウェアの共有フォルダに保存しておき、評価の参考にする。</li> </ul>

## 「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

書写の学習で、「指導者用デジタル教材」を活用すれば、筆を持って行う実技的な指導が得意でない教師も、指導への抵抗が減る。直接の書写指導には及ばない部分もあるが、基本的なポイントを伝えるうえで役立つ。生徒にとっても、繰り返し確認できる動画は、理解が深まり、自身で課題を考える助けとなる。「指導者用デジタル教材」を活用し、生徒の意欲も高まる書写指導を目ざすことができると考える。

## 書写の学習で意識していること

中学校の書写の学習では、初めに運筆動画を見せるようにしている。あらかじめ、教材文字のイメージをもたせることで、生徒が安心して取り組みやすくなるからだ。現代の中学生は、「失敗をしたくない」「まちがえたくない」という気持ちが強く、ゴールを明確に見せることが、生徒の意欲につながると考える。

さらに、指導の際には、「×」をつけたり、「下手」と表現したりするのではなく、「この画は筆の動きを考えているね。」「『右はらい』が丁寧だね。」といった肯定的な言葉かけを意識している。交流の際にも、友達が「○」をつけた点について肯定的に同意したり、他にも「○」に相当するところを伝えたりするよう指導している。

また、実際に筆を持って書く時間をたっぷりと確保し、書写の学習に興味をもたせたいと考える。

そして、評価の際はデータ上で変容を見取ることに加え、実際の筆使いを見ることも大切だと考える。